令和７年度　信濃教育会学び創造研究会

千曲市立埴生中学校 開催要項

個人研究テーマ

一人一人の生徒が、「読みの交流」を通して、一人一人の生徒が感じ、考えたことを自由に伝え合い、学び合う国語の授業

１　期　　日　　令和７年１０月１７日（金）

２　会　　場　　千曲市立埴生中学校

３　共同研究者　　信州大学　講師　大井　和彦　様

４　日　　程

(1) 受　　付　　１２：３０～１２：５０
一般受付【千曲市総合教育センター大研修室】
※総合教育センター入口よりお入りください。
来賓受付【来賓玄関】

(2) 開会行事　　１３：００～１３：１０【総合教育センター大研修室】
① 主催者挨拶　　信濃教育会研究調査部部長　和田　敦　様
② 会場校挨拶　　千曲市立埴生中学校長　竹腰　益臣
③ 諸連絡

(3) 研究説明　　１３：１０～１３：２０【総合教育センター大研修室】

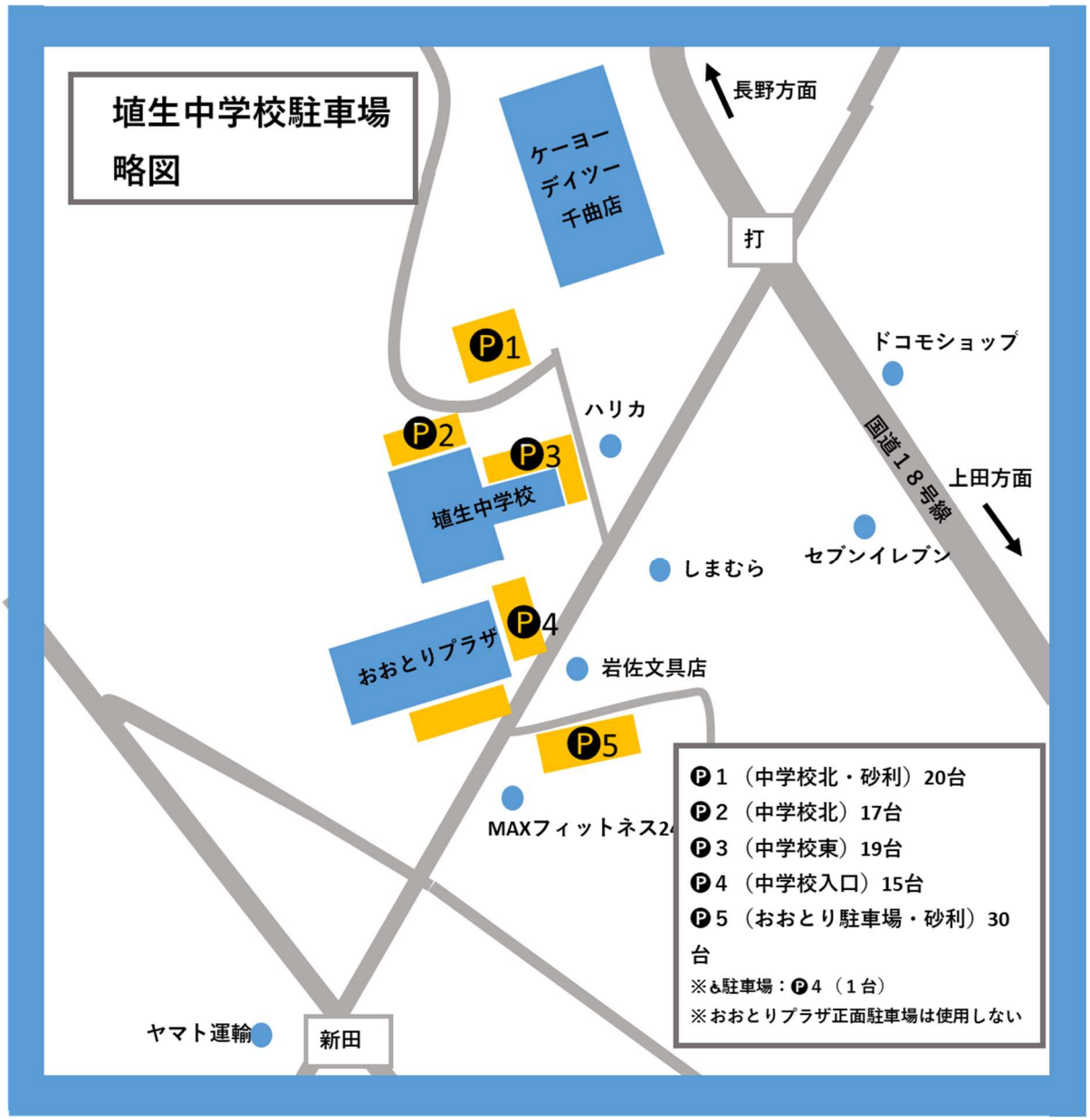
(4) 授業公開　　１３：３５～１４：２５【埴生中学校第１理科室】
① 授 業 者　　遠山　恒輝　教諭
② 教　　科　　国語
③ 授業学級　　１年１組
④ 単 元 名　「本の中の中学生『西の魔女が死んだ』と『あと少し、もう少し』
本の中の中学生と共感できる部分はあるだろうか？
～登場人物と自分の考え方や生き方を重ね、お互いに考えを伝え合い、読みを深めよう～
⑤ 場　　所　　埴生中学校第１理科室

(5) 授業研究会　　１４：４５～１５：５５【総合教育センター大研修室】
① 意見交流　　１４：４５～１５：２５
② 講演会　　１５：２５～１５：４５
講師　　共同研究者　信州大学　講師　大井　和彦　様

(8) 閉会行事　　１５：５０～１６：００
① 会場校挨拶　　千曲市立埴生中学校長　竹腰　益臣
② 授業者挨拶　　千曲市立埴生中学校　遠山　恒輝
③ 諸連絡

５　その他
・各自、上履きをご準備ください。
・駐車場は、別紙駐車場案内をご覧頂き、指定の駐車場をご利用ください。
・その他ご不明の点がございましたら、担当までご連絡ください。

千曲市立埴生中学校
教頭　市川　忠志
TEL　026-272-0015



・国道18号打沢信号、または千曲市道4266号線新田南信号より埴生中学校方面へ向かってください。
・来賓の皆様は P4（中学校入口）をご利用ください。
・一般参加者の皆様は P5（おおとり駐車場砂利）をご利用ください。

Ⅰ　学校教育目標と目指す学校づくり
【学校目標】　　「自主自律」
【目指す学校づくり】　「全ての生徒にとってウェルビーイングな埴生中」

Ⅱ　研究テーマ
（1）全校研究テーマ
「一人ひとりの生徒が、問いや課題・目的を持って、
主体的に学ぶ生徒を育成するための学習指導の研究」
（2）個人研究の重点
「一人ひとりの生徒が「読みの交流」を通して、一人ひとりの生徒が感じ、考えたことを自由に伝え合い学び合う国語の授業」

Ⅲ　研究の歩み
①生徒の実態
　生徒の良さは、様々な活動に意欲的に取り組むことができるところである。また、本年度本校で大切にしている「１時間の学びを振り返ること」が全教科でできるようになってきている。
　一方、生徒の課題はクラスの仲間や全体に考えを発信することである。生徒が作品の解釈について記述する姿はあるが、それを語ることには消極的で、恥ずかしさや難しさからつまずく生徒もいる。

②読書の様子
　学校司書の先生に生徒の実態を聞いてみると、埴生中学校の生徒は、千曲市内の生徒と比べると、読書冊数が多く、本に親しんでいる生徒が多いことが分かった。しかし、読書に関するアンケートをとったところ、小学校の時に比べ、クラブ活動や日々の学習時間の増加により、本を読む時間が減っていることも分かった。

③研究の重点　設定の理由
　私は国語科教師として「文学的文章の魅力や面白さ」を生徒が実感できる授業ができているのかと考えるようになった。普段の生活では味わえない感情や体験を疑似的に体験することや、文章中の言葉の奥に広がる情景などを想像する楽しさを味わえる授業にするためには、どうしていったらいいかを考えて授業を行っていきたいと考え、今回のテーマを設定した。

④読書単元の教材化に向けて
　光村図書出版（株）の 第一編集部中学校国語課にご協力いただき、リモート会議による教材研究を行った。リモート会議では、教材の価値や選定理由を中心にうかがった。

遠山：２つの作品の教科書での位置づけを教えてください。
光村：この単元は、読書単元です。生徒が作品の中身を読んだときに、「先を読んでみたくなるな」と思ってもらえる作品を載せてあります。読書感想文として扱う先生もいますが、こちらとしては、「読書を楽しむ」ことを中心に置きたいので、ポップ作りや、お互いに感想を交流するような授業を提案しています。
遠山：『あと少し、もう少し』で設楽君を選定した理由が知りたいです。
光村：この教材の趣旨は「本の中の中学生」というタイトルの通り、同じ中学生を題材にしていますので、読書意欲が湧く場面を選びたいと考えています。設楽君は冒頭部分なので、生徒が続きを読みたくなるようになると思い掲載しました。
遠山：『西の魔女が死んだ』『あと少し、もう少し』二つを載せている理由はありますか。
光村：「西の魔女が死んだ」の主人公は中学１年生の女の子です。学校への悩みや不安から学校へ足が向かないという気持ちは、共感できる生徒もいると思います。それに対して、「あと少し、もう少し」は６人の男子中学生が登場します。それぞれ違う６人の人物像について考えたり、６区の構成を考えてそれぞれの区間の結びつきについてじっくり読み深めたりすることもできると思います。どちらも「本を楽しむ」という趣旨にあっているものになっていると思います。

オンライン会議を受けて、研究テーマに沿った授業にするために、本時では「あと少し、もう少し」の６人の登場人物から一人を選び、登場人物を自分なりに解釈し、自分の経験や生き方を重ねて語る授業にしたいと考えた。そこで、自分の考えを「共感」をキーワードにし、登場人物への「共感度」を数値化し、理由を書くことで交流ができるように工夫した。

光村図書出版とのオンライン

⑤本授業で読書単元を扱いたいと思ったきっかけ

本単元の教材研究や生徒と半年間一緒に授業を行ったところから、私は国語の授業の中で「もっと読書に親しみ、本に触れる機会を増やしてほしい」と思うようになった。教科書に出てくる文学的文章の多くは、教科書のために新しく書かれた作品である。その良さは、中学生に向けて書かれているので読みやすいことや、教師にとっても授業を組み立てやすく、ねらいをはっきりさせやすいことにある。ただ、その多くが完結している短い作品であるため、「続きを想像しながら多様な読みを交流する良さ」を育てたり、「日常の読書につなげること」を意識した授業に発展させたりするのは難しい。

今回の研究の中心に置いた「読みの交流」を深めるには、生徒が自由に考えを広げやすい作品がよいと考えた。その点、読書単元で扱う『西の魔女が死んだ』や『あと少し、もう少し』は、一冊の本の一部を扱っているため、想像をふくらませやすく、お互いの読みを交流するのにも向いているのではないかと思う。また教科書に載っていない部分も配り、自分で読みたい場面を選んで読む時間を設け、じっくり作品を読む生徒の姿に出会いたいと考え、今回の教材を設定した。

⑥大井先生との共同研究

本テーマに寄せて、大井先生にはこれまで二度来校していただき共同研究を進めてきた。大井先生からは、次のことを教えてただいた。【文学作品を学ぶ中では、「そういう考えもあるんだ」と感じ、「自分の意見を認めてもらえた」と思える瞬間が大切である。しかし、それは単に「皆違って皆いい」という形で終わらせてはいけない。読みの交流では、読んだ内容に関して共通する感覚や異なる感覚を意識することが重要であり、それがフィクションの世界だからこそ可能になる面もある。そのためには、生徒が「考えてみたい問い」をもてるようにすることが交流への第一歩となる。つまり、問いの精選が授業の鍵を握る。また、人物像に関する共感や違和感を扱う場合には、最初に抱いた人物像が変化していく過程を重視することで、生徒はより楽しく授業に参加できる。さらに、議論を深めたいときには必ずテキストや表現に立ち返ることが大切である。そこに立脚することで、解釈が広がり、表現の幅の中にその子らしい人間味や人柄があらわれてくる。】

いただいた助言を元に、研究テーマの具現に向けて、生徒と共に文学作品に向き合ってきた。今回の授業では、一人ひとりが考えをもって、読み進めていく生徒の姿が見られると考える。また「共感できる部分がない」≒「共感できない部分がある」ことが読みの交流の広がりへ繋がると考えた。すなわち、抜き出した表現や言葉が同じでも、「共感できない」「共感できる」生徒がいた時に互いの理由などを伝え合うことで、読みが広がったり深まったりするということだ。また自分の「共感できる部分」に対して、全く別の箇所を挙げてきた場合にどのように受け止め、話し合っていくのかも想定して授業を行っていく必要がある。「読みの交流」を授業に入れる上で大事にしたいところである。

⑦アドバイスをいただく中で変化してきた私の授業観

大井先生から助言をいただき、生徒と授業をしている中で、「生徒同士の解釈」だけではなく、「教師自身の考えや解釈」をぶつけてもいいのではないかと考えた。そう思った理由は、「西の魔女が死んだ」と「あと少し、もう少し」の二冊を読み終えた時に、私自身の中にいくつも解釈が生まれ、誰かと共有したいと感じたからだ。それは、この二冊の本がもつ魅力なのだと思う。本を読み終えたときに、登場する中学生に共感し、それぞれの個性に惹かれる私がいた。中学生向けの書き下ろし作品とは異なる面白さや魅力が、この二冊にあった。

そのため今回の授業では、生徒同士の「読みの交流」を大事にしながら、私自身の読みも伝えながら授業を行いたい。「あと少し、もう少し」では、私自身も６人について自分なりに解釈をした。ただ、私の解釈が「正解」になってしまわないように配慮しなければいけない。「一読者として、作品をどう解釈するか」という視点をもって一緒に学び合いたい。私自身が本を楽しむ姿勢をもち、生徒と共に「読みの交流」ができる授業を目指したい。

学びの創造研究会指導案

授業日時　令和７年 10 月 17 日(金)第５校時
授業学級　１年　１組 男子　19 名　女子 12 名　計　31 名
授業会場　第一理科室
授 業 者　遠山　恒輝
指 導 者　信州大学　大井　和彦　先生

単元名　本の中の中学生『西の魔女が死んだ』と『あと少し、もう少し』
中学生が主人公の作品に、共感できる部分はあるか？
～登場人物と自分の考え方や生き方を重ね、お互いに考えを伝え合い、読みを深めよう～

１　単元設定の理由

≪このような生徒に≫

○本を読むことが好きで、登場人物の行動や言動から自分の考えを深めていきたいと思っている生徒。
○小説や物語を読み進めながら自分の考えをもつことができる生徒。
○小学校時代から様々な本に触れてきているが、物語や小説を読むことに抵抗を感じている生徒。
○作品を読み進める中で形成した考えを見返して再構築したり、より確かにしたりすることが少ない生徒。

≪このような手だてで≫

○「出会う」段階で、「本の中の中学生と共感できる部分はあるだろうか？」と尋ねることで、実際に本の中の登場人物と考えや思いを重ねたことがあるか考えられるようにする。
○「打ち込む」段階で、教科書にある『西の魔女が死んだ』の作品を用いて、本の中の登場人物の考えや思いを読み取り、「登場人物の言動や行動に共感できるか」を話し合ったり、文章に書いてみたりすることで、登場人物と自分自身を重ねて読むことの面白さや良さを学んだり、作品を読み深めていく難しさに気付いたりすることができるようにする。
○「打ち込む」段階で、もう一つの作品『あと少し、もう少し』の６人の登場人物の中から、自分が共感できる登場人物を選び、自分の体験・生き方などに共感できる部分を探してまとめることで、書き手が、様々な描写を用いて豊かに表現していることに気づくことができるようにする。
○「味わう」場面で、『あと少し、もう少し』を読んで考えたことを友達や、先生に伝え、その根拠となる箇所や理由を発表する場を設定することで、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返り、自分の考えを確かなものにすることができるようにする。

≪このような力をつける≫

○自分が文章を読んで考えたことを、ノートやレポートにまとめることができる。
○人によって解釈に違いがあることを理解した上で、互いに自分の考えを伝え合うことを通して、自分の考えを確かなものにしたり、考え直したりすることができる。
○着目した言葉や表現について、辞書やクロームブック等から情報を得て、情報を取捨選択しながら自分の思いや考えとしてまとめることができる。

２　単元の指導計画

(1)単元の目標

①読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。　〔知識及び技能〕（３）オ
②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）オ
③言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　〔学びに向かう力、人間性等〕

(2)評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	①粘り強く叙述をもとに、自分の考えや思いをまとめ、学習の見通しをもって、仲間に自分の考えを伝え合おうとしている。

３　単元展開

過程	学習活動 学習形態【　】	予想される生徒の意識や姿（◎）と教師の支援（・）	評価	時間
出会う／打ち込む／味わう	学習問題：本の中の中学生と共感できる部分はあるだろうか？ ～登場人物と自分の考え方や生き方を重ね、お互いに考えを伝え合い、読みを深めよう～			1
	１普段読んでいる本はどんな本か、今まで読んだ本で、中学生が主人公の作品はあったかどうか考える。 【個人】 【グループ】	・自分の読書生活を振り返り、読んできた本の中で中学生が主人公の作品や登場人物として出てくる作品があったかどうか尋ね、教科書の２つの作品へ繋げられるようにする。 ◎私はハリー・ポッターの作品をたくさん読んできたな。 ◎小学校のときにはカレーライスを読んだ。でも、主人公は小学生だったな。中学生が主人公の作品って読んだことあるかな。 ・全体で発表し合い、多くの生徒が知っている作品を取り上げ、生徒が具体的にイメージできるようにする。 ◎私はカラフルを読んだことがあった。自分と同じ中学生の作品だと読みやすい。 ◎私は中学生が主人公の本を読んだことがないので、読んでみたい。	知識・技能①	
	学習課題：共感できる部分をもとに、自分の考えをまとめよう。			
	２『西の魔女が死んだ』を取り上げ、クラスで感想を伝え合う。 【個人】 【グループ】	・自分が作品に対してどんな考えや思いをもったかを記述するように促すことで、本を読んだ感想を交流できるようにする。 ◎『西の魔女が死んだ』の本は、おばあちゃんが実際に魔女だったという本で、不思議だけれどとても面白かった。 ◎主人公の女の子と同じように、私も学校が嫌になってしまった経験がある。少し共感できたな。 ◎中学生は、色々なことを考えたり、悩んだりする年頃だと思う。作者の梨木さんは、その複雑な気持ちをうまく表現しているな。	思考・判断・表現①	2
	学習課題：登場人物の６人から１人選び、共感できる文や言葉を探し、自分の考えをまとめよう。			
	３『あと少し、もう少し』の登場人物の６人から１人選び、人物の言動や行動などに共感できるかできないかを考える。 【個人】	・本文中に登場する言葉や表現を理解できるように、国語辞典やクロームブックで自由に言葉を調べることを促すことで、言葉の意味から自分の考えをまとめられるようにする。 ◎桝井君は部長で、一目置かれる存在なのだけれど、内心では不調に悩み、プレッシャーを感じていて、部長の大変さが伝わってきた。 ・どの人物にするか悩む生徒や、共感できる部分が見つからない生徒には、人物の行動や発言、心情を表す語句を見つけるように促し、それを根拠に登場人物の性格、価値観などを書けるようにする。	思考・判断・表現①	3・4
	学習課題：共感したことと、共感しなかったことを共感度で表し、仲間と理由などを伝え合い、自分の考えを確かにしたり、考えを広げたりしよう。			
	４自分が選んだ人について、考えや思いを伝え合う。 【グループ】 ５自分でまとめた考えや思いを見返し、自身の読書生活へ活かす。 【個人】 【グループ】	◎３区の「ジローは気楽で助かる」ということで、担任の先生や仲間から色々頼まれることって、私にもよくあるなと思った。頼られるのは嬉しいけれど、それで困った経験もあったな。 ◎僕は B くんが言う「気楽で助かる」っていうのは、中学生にとっては嬉しい言葉なんじゃないかなと思う。自分は頼られるのが好きだし、だから駅伝も声をかけてもらってわざわざ走ったのかな。 ・前時で友や先生と話した内容から、自分自身の考えをまとめる。また教科書の紹介本のページを紹介することで、今後の自分の読書生活に生かしていけるようにする。 ◎自分は今まで、中学生が主人公の本にあまり触れてこなかった。共感できる部分があって、内容もすんなり入ってくる気がしたので、今度図書館へ行ってぜひ読んでみたいと思う。	主体的① 知識・技能①	5本時 6

４　本　時　案

（１）主　　眼

自分の考えをまとめた文章を紹介する場面で、自分が共感できた部分や共感できなかった部分を、登場人物の人柄や駅伝に対する思いなどを根拠に、互いに考えを発表することを通して、自分の考えを確かにすることができたり、広げたりすることができる。

（２）指導上の留意点

・グループを組む際に、自分の考えや思いが交流できるグループにできるように配慮する。

（３）展　　開

過程	学習活動	予想される生徒の反応や意識	支援（・）と評価 □	時間
	１　前時までの自分の学習を振り返り、発表の準備をする。	◎前時に完成させた自分の考えをこれから色んな人に発表したいな。 ◎どんな風に発表したらいいかもう一度考えて、分かりやすく発表したい。	・発表に向けて自分の考えや思いの良さや根拠を確認することで、自信をもって発表できるようにする。	5
	学習課題：共感したことと、共感しなかったことを共感度で表し、仲間と理由などを伝え合い、自分の考えを確かにしたり、考えを広げたりしよう。			
	２　自分でまとめた考えや思いを友達に発表する。	◎Ａさんの考えを聞いて、私は一区の設楽君が仲間と一緒であれば駅伝を頑張れることに共感できた。 ◎僕は、二区の太田くんと同じように、勉強ができなくて、悩んだり腹が立ったりした経験がある。でも駅伝を通して、自分にもできることを見つけられたんだと思う。	・なぜそう考えたのか理由を尋ねることで、友の思いや考えに気付くことができるようにする。 ・発表している人に質問をするように促すことで、より相手の考えや思いに迫れるようにする。	20
	３　友達の考えや思いの良さや違いを考え、伝え合う。	◎３区の「ジローは気楽で助かる」ということで、先生や仲間から色々頼まれることって、私にもよくあるなと思った。Ｂさんとそのことが共有できた。頼られるのは嬉しいけれど、それで困った経験もあった。 ◎４区の渡辺君のような理屈を言う年頃なのが共感できる。自分も皆とちょっと違う見方をしたい時があるから、登場人物の言動がよくわかる。皆はどう思うかな。	・それぞれの良さや違いを比較して、互いの良さを考えるように促すことで、友の発表を参考にしながら、自分の考えを更に深められるようにする。 ・友達の考えを理解しにくい生徒には、抜き出した描写や言葉の共通点を探すように促し、自分の表現の良さや相手の思いや工夫を考えられるようにする。	15
	４　本時を振り返る	◎同じ描写や言葉を抜き出したとしても読む人によって全然違う考えをもつと分かった。でも根拠がしっかりしていれば、その人の思いが表れると思った。 ◎同じ中学生だと、似たような感覚をもって読むことができて楽しかった。今後の読書生活でも、自分と近い主人公の作品を読んでみたり、逆に自分と全く違う人物の本も読んだりしてみたい。	友と考えを発表し合い、感じたことを振り返りに記入し、自分の考えを確かにしたり広げたりすることができたか、発言や振り返り用紙から評価する。 ・振り返りが難しい生徒には、今まで自分が考えて書いてきた内容と、友の発表の共通点や相違点を考えるように促し、自分なりに考えをまとめられるようにする。 ・読書生活についての振り返りを共有することで生徒が、今後の読書生活に生かせることができるようにする。	10

５　教材研究

（１）素材の価値

本校は、千曲市の中でも本に親しむ生徒が多い学校である。しかし、生徒によって読む冊数にばらつきがあることや、小説・物語に触れることが少ない生徒もいる。小学校の時から本校の生徒は、国語の授業で物語文を学び、図書館へ足を運び、様々な本を読んでいるが、中学校へ入ると、クラブ活動や日々の学習時間の増加により、本を読む時間が減ってしまう。今回の授業では、生徒と同じ中学生が主人公の読書教材から共感できる表現や言葉を探し、自分の経験や考え方と重ねて読んでいく。２つの作品に向き合った生徒たち同士が、仲間の考えや思いを聞きながら、読み深めていくと考える。

中学生になって半年経ち、中学校生活に慣れてきた生徒達が、同じ中学生が主人公の本と自分とが向き合う時間を作りたいと考えた。授業の後半部分で、自分の考えと、友の考えを交流し、友の考えや思いに心を寄せながら読書の良さに気付いていく生徒に出会えるのではないかと思っている。

過程	素材	素材の価値	教師の支援（教材化）	生徒の姿や意識
出会う	・中学生が主人公の本	・読書が苦手な生徒でも、同じ目線で読むことが可能で、読みやすい。 ＊紹介する作品の例 『作品名』/（作者名） ・『カラフル』/森絵都 ・『バッテリー』/あさのあつこ ・『坊っちゃん』/夏目漱石 ・『ホームレス留学生』/田村裕 ・『アルジャーノンに花束を』/ダニエル・キイス	・教科書の２つの作品に触れる前に、いくつか紹介することで、自分の読書生活を振り返ることができるようにする。 ・教科書の２つの作品を読んでみるように促すことで、中学生が主人公の作品の面白さや良さを実感することができるようにする。	・同じ中学生だから、内容が入ってきやすいな。 ・同じ中学生が主人公の本って今まで読んだことがなかったな。 ・中学生特有の考えや思いってあるから共感できて楽しい。
／打ち込む	西の魔女が死んだ/梨木香歩	・「西の魔女が死んだ」は、中学校で不登校になった少女まいが、イギリス人の祖母（西の魔女）のもとで過ごす１ヶ月を描いた物語である。祖母との生活を通して、まいが「魔女修行」と称して、自分で決めることの大切さ、生きる力を取り戻していく様子が描かれている。	・「西の魔女が死んだ」は、単なる物語としてだけでなく、人生における大切な教訓を教えてくれる作品であると考える。少女の成長や、生きること・死ぬことという普遍的なテーマも学べ、非常に価値が高い作品と言える。 ・複雑な中学生特有の心情がうまく表現されており、生徒が作品を通して、様々な感情を抱くことが予想される。	・「魔女」が出てくる作品は初めて読んだ。すごく不思議な作品だと思う。 ・この作品には「死」について考える場面が多くある。自分も考えたい。 ・女の子関係で悩んで不登校になってしまったとあるけれど、中学生は人間関係で悩むことがよくあるし、共感できる。
／味わう	あと少し・もう少し/瀬尾まいこ	・駅伝を通して成長する中学生たちの姿を描いている。部活動やクラブをやっている生徒は共感しやすい。また、そうでなくても作品自体が読みやすく、引き込まれるストーリー展開で、駅伝の面白さや中学生の心情描写がうまく表現されている。	・「あと少し、もう少し」は、中学生の青春を描いた小説である。中学生が共感しやすい作品であると考える。また駅伝というスポーツを通して成長する物語として、多くの読者に感動と共感を与える。本に親しんでほしい中学生に読んでもらいやすく、自分の考えや思いを書くことができると考える。	・『西の魔女が死んだ』で学んだ方法で、考えてみようと思う。 ・６人も登場人物がいるので、どの人物にしようか悩むな。 ・共感できる部分を自分の体験を元に書いてみたいな。

６　座　席　表

令和７年１０月１７日（金）
１年１組　男子 19 名　女子 12 名　計 31 名
会場：第一理科室　　授業者　遠山恒輝

※当日配布します。

８　　板書計画

神無月十七日（金）
本の中の中学生

学習問題
本の中の中学生と共感できる部分はあるだろうか？
～登場人物と自分の考え方や生き方を重ね、お互いに考えを伝え合い、読みを深めよう～

学習課題
共感したことと、共感しなかったことを共感度で表し、仲間と理由などを伝え合い、自分の考えを確かにしたり、考えを広げたりしよう。

まとめ

準備するもの
- chromebook
- ワークシート
- 『あと少し、もう少し』の本および本文
- 中学生が主人公の小説